

私の探鳥地（58）（野鳥だより 163号 2011年3月）

ほりかつぶがわ

堀株川河口とその周辺（共和町）

蓮井 肇

私が紹介する探鳥地は後志管内共和町の堀株川河口及びその周辺です。堀株川と聞いてもピンと来る人はあまり多く無いと思いますが（そんなことを言ったら共和町の人たちに怒られるかな？）、共和町を流れて泊村との境目付近で日本海に注いでいる2級河川であり、札幌から車で2時間程度で行ける場所です。国道229号も近くを走っているので、比較的分かりやすい場所ではないかと思えます。まず河口左岸側（岩内側）から紹介します。国道229号から河口左岸までは最初に防風林帯を通っていきます。



そこではアカゲラやコゲラ、カラ類といった森林性の鳥達が見られます。防風林帯を過ぎると林縁と畑や草地に挟まれた道を通りますので、季節によってさまざまな鳥たちが見られます。ヒバリやノビタキといった草原性の鳥はもちろん、キジバトやアリスイも常連です。冬場にヤマヒバリに会ったのもすぐ近くです。終着点の河口は高さ20m程度の崖になっていて岩内湾を一望できるようになっています。そこでは日本海からの向かい風に乗って飛んでくるトビやオオセグロカモメを人目線で見ることができますし、運が良ければミサゴのダイブに立ち会うこともできます。沖合いにウミアイサや海鴨類の群れを見つかることもあります。

次に右岸側（泊村側）を紹介します。河口右岸へは堀株川支流の堤防を進んでいきますので、河川側はアオサギやダイサギが見られ、畑側にはチュウヒが現れることもあります。支流が堀株川と合流するところでは、流れが緩やかになっていますのでバンの子育てが見られる年がありますし、カワセミや淡水鴨類、対岸の崖の木に留まっているミサゴを見つかることもあります。そこから徐々に草地から砂地になり河口右岸は砂浜となっています。砂浜では数は多くないですが、シギ・チドリ類に会うことがありますし、砂浜後ろの小さな崖にショウドウツバメのコロニーが出来ることもありますので、砂浜のチェックも忘れられません。又、ノスリのホバリングや季節はずれのオジロワシに出会うのもなぜか右岸です。

このように堀株川河口付近は川、海、森、草原と多様な環境が存在する場所ですので、運にめぐまれると多種の鳥を観察することができる楽しい場所だと思います。